

明石市のトップリーダーにふさわしい人物を選ぼう

2011年4月 明石市長選への対応について

声 明

2011年3月16日

明日の明石市政をつくる会

連絡先：住民自治研究会あかし fax078-914-8039 jiichi-ken@jiichi-akashi.com

世話人：入江一恵 小山英二 高橋宏 玉木哲郎 松本誠 山田利行

明石市のトップリーダーにふさわしい人物を選ぼう

2011年4月 明石市長選への対応について（声明）

明石市長選挙の公開討論会を開催した3日後の11日に発生した「東日本大震災」は、巨大地震と巨大津波に加えて、史上最悪の事態も懸念される原発災害がいまも進行拡大中で、未曾有の複合災害への全国民を挙げた対応が求められています。

この災害で亡くなられたたくさんの方々のご冥福をお祈りするとともに、尊い家族を失われたご家族、無数の行方不明者の安否を気遣われているご家族ご親類ご友人の方々、そして厳しい避難生活を強いられている方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

私たちは、16年前の阪神・淡路大震災の被災住民として、世界中の方々からの温かい支援に励まされながら、国と自治体が先頭に立って一刻も早く被災地の方々に救援・支援の手が差し伸べられるよう願います。

このような中で、私たちの足元で目前に差し迫った明石市長選挙では、明石市政のかじ取りを間違えなく担っていただける市長を選ばなければならないことを、より一層強く感じています。今回の選挙について、以下のように明石市民の皆さんに強く訴えます。

I. 市民マニフェストと公開討論会について

来月4月に予定されている明石市長選挙について、私たちは昨年末の明石市政の混乱状態を目の当たりにして、今度こそ「間違いのない市長選び」をおこない「間違いのない市長」を市民の手で選び出したいとの危機感のもとに、市民が願う市民の政策として「市民マニフェスト」をたくさんの方が議論してまとめました。

この市民マニフェストをもとに、市長選挙に立候補を予定している方たちを招き、立候補予定者の「公開討論会」を3月8日夜、明石市民会館中ホールで開催しました。立候補を予定している2名のうち1名は再三再四にわたる日程の調整と出席要請にもかかわらず、討論会の当日、欠席しました。討論会では、もう1名の候補予定者と2時間半にわたって、市民マニフェストの個々の政策の実現に関して中身の濃い討論を主催者側と交わすことができました。参加した約230人の市民からは、候補予定者の考え方と人となりがよくわかった、と好評な結果に終わりました。

私たちは、今回の市長選挙ではいわゆる「地盤・看板・かばん」で市長を選ぶのではなく、具体的な政策を見極めて、候補者が実行しようとする「政策」で市のトップリーダーを選ぶ「ローカル・マニフェスト選挙」をめざし、市民が市長を選ぶ「基準」や「ものさし」として「市民マニフェスト」を使うことにしました。市民マニフェストについて立候補予定者がどのような考え方をもち、市民の願いを実現しようとしているのかを、市民との対話、討論を通じて明らかにしたいと期待しました。

したがって、今回の公開討論会をその貴重な機会にしようと、1万枚の呼びかけチラシを配布し、開催当日まで1週間にわたって連日朝夕5時間、明石、西明石、大久保、魚住、朝霧の各駅前で呼びかけを続けてきました。

このようにして開催した公開討論会の結果を評価・判定し、すでに立候補を表明している2名の方についての評価を以下のようにまとめ、今後の運動展開についての方針をまとめました。

Ⅱ. 2名の立候補予定者の評価について

(1) 宮野敏明氏について

宮野氏には再三再四にわたり出席を要請し、討論会開催時刻までお待ちしましたが、最終的に出席されませんでした。

同氏に対しては、同氏が記者会見を開いて立候補の意向を表明した2月16日以降3月5日まで5回にわたって面談と文書を通じて、公開討論会への出席を要請しました。16日には記者会見直後に面談し、文書を添えて出席をお願いするとともに、都合のいい日程を打診しました。当方からは3月3日の提案をしましたが、この日は都合が悪いということなので、前後の都合のいい日の調整をお願いしましたが、2日後に仲介者を介して「現時点では時間的都合をつけるのは難しい」「たくさんの団体から同種の要請が来ているが、すべての要請を辞退したい」ということでした。

私たちは21日あらためて、3月8日の日程を提案し、この日の都合が悪い場合には他に3つの予備日をつけて出席の検討をお願いする文書を書留郵便で送り、日程については25日までに回答がなければ3月8日開催で準備を進めることを示しました。

しかし、26日夜になっても応答がなかったので同夜開いた世話人会で3月8日の開催を決定し、重ねて出席のお願いをした文書を3月1日に書留郵便で送付しました。宮野氏サイドからは入れ違いに3月1日夕、同氏の後援会とみられる「みんなで明石を創る会」の差し出し人名義の文書（2月27日付け）が届きました。

この文書では「私ども『みんなで明石を創る会』は、市長候補予定者が個々の団体と討論を行うということも重要と考えておりますが、まずは、できるだけ多くの市民の方々に候補予定者の思いや意見を聞いてもらい、市民の方々にご判断をいただくことが必要であるとの基本的な方針を立てており、しかも本会のスケジュールに沿って活動しておりますので、日程の余裕もございません」と説明し、「公開討論会への出席ができません」と理解を求めていました。

これに対して、私たちは「公開討論会は、市民と意見を交わす重要な会合であることの認識」を求めて、重ねて出席を要請する文書を3月3日、書留郵便で郵送しました。この文書の中では、「できるだけ多くの市民の方々に候補予定者の思いや意見を聞いてもらい、市民の方々にご判断をいただくことが必要であるとの基本的な方針」を持たれているのに、なぜ討論会の時間をとることが困難なのか説明を求めました。また、「候補予定者の施策について意見や感想をお知らせください」と記載していることについて、市民から寄せられた意見や感想に対する回答や説明はどのように取り扱うのかについても、具体的な説明を求めました。

さらに、出席要請については候補者本人と直接面会し本人に直接文書で要請したにもかかわらず、後援会の代表者や責任者の明示もない文書での回答に疑問を呈し、本人の意思を確認できる形での回答を求めました。

このような経緯の中でさらなる回答がないまま、5日には討論会での具体的な質問事項を添えて、あらためて出席をお願いする文書を宮野氏の自宅に届け、家人に手渡しました。

このようにして、討論会当日は宮野氏の席も用意して、開会ぎりぎりまで出席を待ったが、結局姿を見せられないままに終わりました。討論会を終了した後、上記の後援会から3月7日付けの文書が届いていることが分かりました。この文書では「先般お答えした方針は、候補予定者とスケジ

ルール管理を行う『みんなで明石を創る会』との間で協議のうえ決定した事項であり、基本的な考えに変更はありません」と述べ、出席要望には応えられないと通告したものでした。

以上、長々と経緯を説明しましたが、宮野氏の事実上の「出席拒否」は、私たちの予想できないものでした。今回の市長選挙は、昨年4月に明石市の「憲法」でもある自治基本条例が施行されて初めての選挙であり、条例は主権者である市民の「参画」と「協働」「情報の共有」を保障する責務を市長に課したものです。その市長の座をめざす立候補予定者が、市民との対話をかたくなに拒むことは、私たちの想定外のできごとでした。たとえ意見が異なる市民が対象であったとしても、市政の課題や在り方について堂々と対話し議論する「姿勢」がなければ、市長としての「資格」もないと言えるからです。

宮野氏については、討論会への出席拒否だけでなく、明石市の市長としてふさわしい人物であるかどうかについては、幾つかの疑問点があります。

一つは、出馬表明の経緯や動機についての疑問です。

宮野氏の市長候補への担ぎ出しは、昨年秋以降、市役所内部や議会筋で動きがあり、年明けからは出馬表明は時間の問題とみられていました。具体的に表面化したのは2月3日に、市議会の4つの会派（新政会、公明党、民主連合、清風会の19議員）がそろって同氏を招いて出馬要請したのに始まります。その後、商工会議所や医師会はじめ経済、業界団体との会合や出馬要請、推薦の動きを経て2月16日の出馬表明になりました。

この記者会見では具体的な政策はこれからだとして明らかにしませんでした。「政党への支援は要請しない」と発言していました（新聞報道）。しかし、これはおかしなことでした。自民、公明、民主党とそれぞれ関係を持つ市議会の各会派の推薦・支持を立候補の表明の“原点”としているほか、業界団体等の「特定の団体」の支援を受けての出馬表明だったからです。政党との関係に一線を画すつもりだとしても、市議会会派や業界団体の要請・推薦によって出馬を決意した経緯は、特定の政治党派や業界団体などとの強い関係から担がれた候補と見ざるを得ません。

政党は政治団体ですが、議会の会派は明石市政を担う議会と行政の一方の柱です。自治基本条例にも明らかにされていますが、選挙で選ばれた議員で構成する市議会は、同じく選挙で選ばれた市長をチェックする立場にあります。チェックする立場の議会の過半数を占める4つの会派が擁立した市長という構図は、市長と議会が公正な緊張関係でチェック&バランスを担う議会本来の役割をないがしろにすることになりかねません。会派も会派ですが、そのような“神輿”のうえに乗った市長候補も、自治基本条例の趣旨を理解していないことになります。宮野氏の選挙用リーフレットの冒頭には「自治基本条例に沿い、明石の自治を推し進め…」と書いていますが、出馬のルーツそのものが自治基本条例の精神を冒瀆したのになっていることに気づかねばなりません。

もう一つは、市長になって何をするのか、何をやりたいのか—という出馬の動機と具体的な政策です。

出馬表明の記者会見では、政策らしい具体的なことは一言も述べていません。記者会見直後に面談した際に口にされたのは「自分の知らないところでお膳立てができていて、政策などはこれから考えることです」と、公開討論会への出席に消極的な理由を挙げておられました。具体的な政策を発表したのは、公開討論会が終わって3日後の3月11日でした。

政策も明らかでない人物に出馬要請したグループや団体もさることながら、「知らないうちに担がれた」と公言し、出馬表明から1カ月近くも経ってから支援者や推薦団体でつくられた政策を発表するような主体性を欠いた人に、難問山積する市政のかじ取りを委ねることができるのでしょうか？

発表された政策については、討論会に来られなかったので突っ込んだ理解をすることはできませんが、以上のような経緯のうえに市民との対話の場を拒否した事実を考えると、私たちが掲げる市民マニフェストを実行するにふさわしい市長とは到底考えられません。

以上のような理由から、宮野氏については「自治基本条例を推進し、市民が期待する政策を実行できる市長としてはふさわしくない」と判断せざるを得ませんでした。

(2) 泉 房穂氏について

泉氏は公開討論会に積極的に出席する姿勢を示し、当日も「市民マニフェスト」への考え方や実現への姿勢について、正味2時間15分にわたった討論で熱心に答えられました。討論会に参加した市民の半数近くから回答を得たアンケートでも、その発言の姿勢に好感を持った人が圧倒的に多かった。

もっとも、環境に関する政策や、職員研修や人事制度等に関する問題など一部の政策については不十分と感じた市民が少なからずあり、さらなる協議と提案が必要な面もあるが、全般的には市民マニフェストに賛同し、同じ立場に立つことを明言したことが多かった。

今回の討論会に際して、私たちは「市民マニフェスト」をつくる議論にかかわってきた約百名のメンバーに限定して、討論会に出席した候補予定者の「評価・判定表」を配り投票をしてもらいました。16の質問項目一つひとつについて、○（良い）、△（普通）、×（良くない）の3段階の判定をしてもらった結果を客観的な評価の一つとして参考にしながら、評価・判定会議を進めました。

この結果、総合評価では過半数が○と評価し、△を合わせると9割近い人が“合格点”を与えました。こうした判定結果にもとづき、質問したマニフェストの各項目についての発言や、討論会に臨んだ姿勢等を評価すると、政策面では市長候補としては合格点を得たと判断できました。

ただ、泉氏については、今回の市長選挙に至る経緯で、市民として素直に納得できない面が幾つかあったこともあり、全面的に市長候補として支持するとはいかないものの、宮野氏と対比すれば市長としてよりふさわしい候補であるという認識に至りました。

Ⅲ. 独自候補の擁立について

明日の明石市政をつくる会は、市民マニフェストに賛同し、その実現をめざすにふさわしい候補が居なければ、市民マニフェストを背負って実現をめざす「独自候補」の擁立も辞さないという覚悟をして活動してきました。

泉氏が市民マニフェストについて概ね賛同し、その実現に努力するということを明らかにしたものの、なお、幾つかの疑問点も存在したことから、あえて独自候補を擁立して市民マニフェストの完全な実現をめざすべきであるという意見もありました。ただ、問題は「市民マニフェストに賛同

し、その実現に努力する」という候補が存在するのに、あえて第三の候補を立てて三つ巴の選挙に持ち込む必然性や“大義”があるかどうかという議論になりました。

この点に関しては、泉氏と対立する候補が「市長としてふさわしくない」という判断をした限り、ふさわしくない候補を市長にすることのないようにするのがベターな選択であるという「選挙の原則」（よりふさわしい候補を選ぶように努力する）に従えば、第三の候補を立てて共倒れになる危険性を避けるべきであるという“大人の選択”をしました。

したがって、今回の市長選では独自候補の擁立を見送り、市民マニフェストの意義とその実現を市民に訴えるとともに、「自治基本条例を推進するのにふさわしくない市長」を選ぶことのないように努力していくことを方針とすることに決定しました。

IV. 明日の明石市政をつくる会の今後の方針と具体的な行動について

今回の市民マニフェスト運動を展開するにあたって1月16日の集会で確認したように、予定される主な候補者についての評価を以上のように確認したかぎりには、私たちは「市民がつくった市民の政策」である市民マニフェストの実現をめざして、明石市民が「間違いのない市長選び」を行っていくように今後とも市民に訴え、新しく就任する市長にその実現を求めています。

「市長としてふさわしくない候補」が市長に就くことがないように、さまざまな方法と行動を通じて、市民としてやれる運動に取り組んでいきます。また、市民マニフェストについても、まだ十分練り込まれていない面もあるために、いっそうたくさんの方の市民の声を反映して、選挙後の新しい市政の推進に組み込まれていくように努力を続けます。

具体的には、どのような行動を行っていくかは別途協議しますが、とりあえずは公開討論会に「日程が合わず欠席した」と主張している宮野氏には、公開討論会で質問しようとしたことについて文書による「公開質問状」を提出し回答を求めて、広く市民に公表していきたいと考えています。

また、私たちは開会中の3月市議会に2つの請願を提出しました。一つは、今議会で成立を図ろうとしている「市民参画条例の慎重審議を求める請願」です。もう一つは、「議会における自治基本条例の遵守を求める請願」です。

前者は市民マニフェストの中でも最も重視した問題でしたが、市議会の多数会派は市の理事者側と同じく中身の乏しい形だけの条例施行を優先する立場に固執し、請願採択に反対して原案通り条例を可決しようとしています。後者についても、多数派議員は見当外れの反論を重ねながら「議会改革は進んでいる」と主張して、請願採択には至りませんでした。

来月の選挙では市議会も一緒に改選されます。私たちは二元代表制の自治体運営においては、市長とともに議員の資質向上と議会改革が市長選びと同じく極めて重要だと考えます。今回の市長候補擁立に際して行われた多数派会派の行動は、二元代表制の趣旨に反するだけでなく、自治基本条例の趣旨にも反した行動と理解せざるを得ません。今回のダブル選挙においても、また改選後の新しい議会に対しても、市議会と議員のあり方について追求していきたいと考えています。

以上